



2021年
2.14
第1378号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

出雲 民青同盟が学生食料支援

60人の学生「うれしい」

すみより衆院比例が駆けつけ、実態聞き取る

日本民主青年同盟県委員会は7日、出雲市内で食料支援活動「ハッピーフードプロジェクト」に取り組みました。1月に松江市内で行った支援に続く2回目の活動。事前に近くのアパートや寮などに案内ビラ1900枚を配布しました。

2時間で60人の学生（留学生含む）が利用し、お米や野菜、カップ麺、レトルト食品、日用品などを持ち帰りました。島根大学医学部1年生の男子学生がボランティアで参加しました。

SNSで知って来たという大学1年の男子学生（19）は「オンライン授業では知識が身につけているのか不安。人に会えなさすぎてストレスを感じる」と語りました。



食料や日用品などを選ぶ学生ら（出雲市・島根民医連医系学生サポートセンター）

友人からの口コミで来た大学2年の男子学生（21）は「対面で行う塾の講師は感染リスクを考えて中断した」と語り、収入が減り、生活費を削

原発再稼働判断 住民の声を聞け

原発ゼロをめざす島根の会は5日、県に対し、原子力規制委員会による新規制基準適合性審査が終盤を迎えている島根原発2号機について、医療・介護・福祉関連産業、自然保護団体など、様々な団体からしつかり意見を聞いた上で再稼働の是非を判断するよう申し入れました。岡崎由美子（弁護士）、山崎泰子の両共同代表ら6氏が県庁を訪れ、日本共産党の尾村利成、大国陽介の両県議が

同席しました。岡崎共同代表らは、県民世論を汲み尽くすよう、積極的に多様な意見を聞くべきだと訴え。島根原発サイトバンクにおける県の対応も追及し、県は再稼働防止を中電に求める立場にありながら、具体的な改善策の提示も要求していないと指摘。「何度も不正を繰り返す中電に対し、県としての責務、役割を主体的に果たしてほしい」と強く求めました。県防災部

ついていると訴えました。日本共産党の、すみより聡美中国ブロック比例予定候補が駆けつけ、学生から生活実態を聞き取りました。

医療機関への減収補填を 出雲 大國県議らが斐川生協病院と懇談

新型コロナウイルスの感染者が島根県内でも拡大する中、日本共産党の



大國陽介県議、ごとう由美市議、吉井やすみ市議予定候補は2日、斐川生協病院を訪ね、吉田亨専務理事、三代由美子看護部長、有藤小百合介護事業部長と懇談しました。「外来・入院患者が減り大幅な減収です。院内でのコロナ感染を防ぐため、職員に自前（病院負担）でのPCR検査も実施しています」と吉田専務理事。「一般病床と同様

核兵器禁止条約を力に 大平氏が被爆者らとシンポ

子代表理事は「歴史をもっと伝え、平和を守り抜く」と訴え。被爆2世の竹永光恵・党岡山市議は、政治を遠く感じる若者に向け「心に届く言葉で活動をした」と述べました。毎夏に首相に直談判してきた広島県被団協の佐久間邦彦理事長は「今の政府では、私たちの願いはかなわない」と政権交代を求めました。大平氏は、総選挙での野党連合政権の実現をめざし、「政治の流れを転換する歴史的な年にしたい」と語りました。（2面関連）

に、感染予防にかかる医療材料費の支出が大きいにも関わらず、コロナ患者に直接携わらない療養型病床には補助金メニューが少ない」と語り、感染防止対策にかかった経費などへの助成拡充を要望しました。大國県議が「医療機関や介護施設への定期的なPCR検査（社会的検査）費用や減収補填などの財政支援は切実ですね」と話すと、吉田専務理事らは「公費による補助をぜひお願いしたい」と強く求めました。

鼓動

「あの山と川と道はいつも私の中にあるんです。故郷に帰るとすぐ津和野弁になる。津和野へ帰るのは、いまでも子供のころに帰る旅です」。画家で絵本作家の安野光雅さんが昨年末、94歳で亡くなった▼遊び心でいっぱい、不思議な絵本、淡い色調の優しい水彩画は世界を魅了。想像力と多彩な才能にあふれ、歴史や文学、数学、科学にも造詣を深め、エッセーも数多く残した。その人柄は、ユーモアと機知に溢れ、おろからかでももう一度会いたい、と思う笑顔の持ち主だったという▼「津和野は山に囲まれ、ひっそりとした町屋が並んでいる。夕暮れ時、家々の煙突から出る煙が霞のようにたなびく様子は、つくづくこの町が故郷という名に値すると思う」との郷土愛が旺盛な創作活動の原点だった。生前「もう一度津和野に帰りたい」との思いはかなわなかった▼かつて小欄で「津和野を歩かずして島根を見てきたというなかれ」と記したが、初めて散策した異郷の者までをも魅了した町並み。安野さんはそこに「日本の原風景」を見ていた。駅前の白壁土蔵造りの安野光雅美術館を訪れ、「安野ワールド」を心ゆくまで堪能したことを思い出した▼絵本「きつねのさんげ」に、「嘘ばかりつく政治家にあげられるキツネ」が登場する。安野さんらしい風刺である。また、福島原発事故に際しては「核燃料サイクルが未確立のままの原発稼働はまちがい」と厳しく断罪。さらに自らの兵役体験については「人生が映画フィルムならカットしたい」とした上で「力の限り、言葉と絵で平和憲法の大切さを伝え続けたい」と訴えていた。（吉）